

自治連よなご

第55号

平成30年(2018年)10月1日発行

発行 米子市自治連合会
(事務局 米子市総合政策部地域振興課内)

編集 『自治連よなご』編集委員会

米子市自治連合会 平成30年度定例総会開催

5月19日(土)米子市文化ホールを会場に定例総会を開催しました。表彰や事例発表、事業計画等の決定、新年度役員選出などが行われ、今年度のスタートとなりました。



○表彰状贈呈 (自治会長20年在任) 1名

加茂地区 (加茂六区自治会) 宮富 進 氏

○事例発表

福米西地区 新開西三区自治会

*前年度鳥取県頑張る住民団体等知事表彰受賞団体

○感謝状贈呈 (自治会長10年在任) 6名

啓成地区 日ノ出町自治会 嘉賀 彰 氏

明道地区 日野町自治会 福原 則昭 氏

明道地区 紺屋町自治会 河原 英明 氏

福生西地区 福生西四区自治会 荒木 克利 氏

和田地区 和田四区自治会 田邊 忠雄 氏

夜見地区 夜見六区自治会 内藤 昭紀 氏

住んで楽しいまちづくり

米子市長 伊木 隆司



「与えられた人生を精一杯楽しもう」というのが私の人生観です。仕事も遊びも楽しく充実してこそ人生です。

米子市は経済産業省の生活コスト「見える化」システムにより、「暮らしやすさ日本一」という評価をいただいています。豊かな自然に囲まれ、食べ物や水はおいしく、医療機関は充実し、人々が開放的な米子の街は間違いなく暮らしやすいと思います。

その「暮らしやすさ」を多くの人々が実感するためには、これを一歩進めて「住んで楽しい」という

思いを市民が共有できる街にすることが大切です。都会に人が集まるのは、暮らしやすさよりも街から受ける刺激や仕事の充実があるからでしょう。つまり、単に暮らしやすいだけでは人は増えず、「楽しい」とか「面白い」というスパイスが加わって初めて人がそこに住むきっかけになるわけです。

「住んで楽しいまちづくり」を進めることで、暮らしやすさと豊かさを心から実感できる米子の街を目指したいと思います。

住んで楽しいまちづくり

ほめ言葉のシャワーで子どもたちを育む

河岡自治会 山下 美代子

「きれいな字が書けているね。」子どもたちの自然な学び合いを見守る優しい眼差しがそこにありました。今年も夏休みに、地域に返ってくる子どもたちを地域が迎える『かわおか寺子屋』を一人の女性の発案者に賛同した、河岡女性会の有志が協力して開催しました。

夏休みの「生活習慣の定着」と、「地域の人たちの関わりづくり」を目的に、平日の午前中の五日間、河岡公民館で、宿題や地元の人たちを講師に迎え、「手話」「英語」「河岡を知る活動」などを行い、自分の学習とともに地域を知り学ぶ取り組みを行いました。

河岡自治会では、長い間、河岡婦人会として活動していた組織を、今年四月に女性会に組織変更するとともに、その活動を『自由な発想』と『自分たち

の地域での居場所づくり』『現代に合った活動』を基本として、子どもたちや高齢者への関わりを含めた『住んで幸せを実感できる活動』を開始しました。



この町で暮らす

米子市大篠津地区御崎自治会長 岡田 隆
特定非営利活動法人「ひだまり」理事長

米子市の北東部に位置する大篠津町は人口2016人、世帯数863世帯、高齢化率32%です。30年前までは生活必需品は町内で購入する事が出来ましたが、現在町内には小売店は殆ど有りません。車が有れば数分で大型スーパーへ行けますが徒歩では食料品さえ購入できないのです。このままでは大篠津で生活する事が困難に成ります。私たちは美保中校区PTAOBでこの地で暮らして行ける組織作りに取り組みました。持続性の有る支援を行うには責任の明確化、諸官庁への申請や各種保険の加入等を考慮すると法人化が必要です。

平成26年に「NPO法人ひだまり」を立ち上げました。介護施設を持たない在宅支援という試みが住民の皆さんには中々ご理解を頂けませんでした。大篠津地区自治連合会さんの理解と協力で認知度を高め、現在は美保中校区内からの通院や買い物の福祉

有償運送、住居の清掃や除草、軽微な修繕、健康管理、投棄管理、空き家管理等日常生活全般の支援を行っています。

「この町で暮らす」取り組みを今後も地区自治連合会さんと共に行ってゆきます。



「安心葬儀」“小さな葬儀”から“大きな葬儀”まで

ぴあべール

会館葬・自宅葬・寺院葬

(代)☎39-2222

ぴあべール米子
米子市両三柳103

ぴあべール・はまゆう
米子市富益町2258-1

Friend's

HAIR&TOTALBEAUTY

米子市上後藤7-7-8

9:00~18:00

(0859)29-7937

上後藤二区そばを楽しむ会

6月3日、今年も上後藤二区自治会恒例のそばを楽しむ会が終わりました。

この会は、文化部と女性部共催で、毎年6月の第一日曜日に実施している自治会の大きな行事のひとつです。

当日の朝は、昼に食べるそばを打ち始め、その準備が終わる頃、子ども会の子ども達がやって来ます。

いよいよそばを楽しむ会の始まりです。2.3人に分かれた子ども達がこね鉢を囲み、200gのそば粉をこねて円錐形にし、のばし棒で伸ばし、切っていきます。切ったそばをゆで、水で洗い、氷水でしめ、ねぎと刻み海苔、かつお節をのせて出来上がりです。おかわりする子もいて、自分で打ったそばは格別のうまさがあるようです。

今度は、大人のそば打ち体験時間です。400gのそば粉を子どもと同じように指導を受けながら一人で打っていきます。打ちたてのそばを食べに来た人達も集まって来ました。そばを食べながら各テーブル

上後藤二区自治会女性部長 山本 群子

で話が弾み、地域の交流を担っている気になります。

以前、手伝ってくれていた小学生が高校生や社会人になった姿を見たり、この会でそば打ちに興味を持ち続けて、指導して下さるようになったり、本当に長く続いている行事だと改めて思いました。

そば同好会、自治会、参加者の皆さんのおかげで、今年も「そば」を楽しむことができました。



米原まつり

子ども達が夏休みに入った七月下旬に「第三十四回 米原まつり」を行いました。近年、一千世帯に迫る地区になり、各自治会・子ども会の交流の催物として長く続いています。

日曜日の午後から夕方までの短い時間の催しですが、実行委員会（自治会・壮年会・子ども会・在宅福祉員・地区介護施設）を立ち上げ、複数回の打合せを行い、来場される皆さんに喜んで頂ける祭りとなるよう取り組んでいます。

祭りの特徴は、費用を自治会員からの寄付によって運営しており、集金する自治会班長に苦勞をかけています。

課題としては、運営スタッフの不足です。催し物では地区内の米子北高校吹奏楽部、がいな太鼓福米

米原地区（一、二、三区）実行委員長 佐藤 博晴

東子供連の出演で祭りを盛り上げていただいています。



医療・保健・福祉 ホスピタウンネットワーク



医療法人
社会福祉法人

真誠会

米子ホスピタウン（河崎） 弓浜ホスピタウン（大崎）
米子中央ホスピタウン 外浜ホスピタウン 高齢者生活支援隊
（西福原、富士見町、皆生） （和田町、富益町、夜見町）

米子市河崎580 TEL 0859-24-5666 <http://www.hospitown.or.jp/>



社会福祉法人尚徳福祉会
認定こども園
ベアーズ

〒683-0257
米子市榎原1889-6
TEL (0859)39-7100
FAX (0859)39-7101

ホームページアドレス
<http://sfg21.com/bears/>

事例発表団体紹介 (新開西三区自治会)

「新開西三区自治会」(福米西地区)は、平成5年の国道431号線の開通を契機に大型店舗の出店、集合住宅の建設等が相次ぎ、市街地化が進んだことにより、同年4月1日に当時の「新開西自治会」が3分割されたことにより新たに発足した自治会です。

発足当時、加入約130世帯、事業所11団体、班数10班でスタートした同自治会ですが、現在では、加入586世帯、賛助加入112世帯、事業所29団体、班数21班と、市内でも有数の大規模自治会となりましたが、この背景には、発足当初から、加入促進活動に重点的に取り組まれ、啓発文書による加入の働きかけ、共同住宅に対する準会員制の導入等、様々な独自の取組を展開してこられた経過があります。

また、組織が充実・安定した頃を見計らって、新たに事業部を設立、自治会内部の親睦を深めるための事業として親睦地引網を企画・実施され、これが後に親睦納涼大会へと発展・展開する等、子どもから大人までが楽しめる行事等の開催を通じて、魅力ある自治会づくりを戦略的に進めてこられました。



若い現役世代が多い土地柄ですが、こうした取組を通じて、住民同士の絆が深まり、連帯意識が高まってきていることが、更に、新たな加入世帯の獲得につながる良い相乗効果を生んでいるようです。また、大規模な自治会ではありますが、平素からの連帯意識を大切にしておられ、月1回は、必ず役員会を開催して組織内での情報共有の徹底を図っておられるそうです。



しかしながら、新しい自治会にも高齢化の波は及んでおり、高齢者2人世帯、独居世帯が多くなってきているようで、現在は、「明るく安全なまちづくり」をテーマに防犯灯設置の促進とあわせて、地域内の安全対策強化を目的に防災部を新設され、防災倉庫の設置、事業所との避難場所協定の締結等の新たな取組に着手されています。

経年による組織状況の変化と、それにとまなう地域課題の変化を機敏に捉え、柔軟な発想で、また、組織が一丸となって問題解決に当たる姿は、正に、現代の自治会運営の良きお手本だといえます。

平成30年度定例総会事例発表より抜粋

平成30年度
米子市自治連合会
常任委員(各地区自治連合会長)
のみなさん

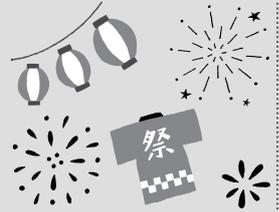
啓道 明将 就方 義吉 住尾 車茂 加崎 河崎 福生 福生 福米 福米 彦西 彦名 大津 大津 和益 富田 夜見 成実 尚徳 永江 五石 巖日 春高 大日 淀川 宇和 大田

◎ 大原 足立 奥田 山内 依藤 湯原 松井 鷲見 脇坂 松本 手島 田邊 吉岡 武良 木村 端下 上田 福景 徳永 北村 加藤 高野 森脇 杵築 平井 大櫃 大西 昭彦 興紀 道彦 俊朗 卓夫 和男 朗郎 二郎 文隆 順一 康則 良則 吉春 賢治 元治 忠雄 喜啓 喜眞 克均 博己 俊一 英二 明克 英登 道弘 研治

◎ 会長 ○ 副会長

がいな祭 募金へのご協力ありがとうございました。

「第45回米子がいな祭」の開催にあたりまして毎年格別なご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。本年も自治会を通じて変わらぬご支援を賜り、**2,672,169円**(8月末現在)もの募金をいただきました。厚くお礼申し上げます。



編集後記

ピカピカの一年生が現れる四月から、登下校する児童達に積極的に声をかけ、あいさつを交わすことで不審者から守り、安全で安心な学校生活を送れるよう、そして、「おはよう」と言えば「おはよう」と返ってくる、そんな家庭、そんな学校、そんな地区でもあるように、あいさつ運動を実施致しております。

また、通学路を中心に幟旗を立て、意識の啓発も行っております。

はじめのうちは、こちらが声を掛けると不審者を見るような眼差しで見られておりましたが、今では児童の方から「こんにちは」と声が掛かるようになってきております。

しかしその反面、狭い道路で大人同士がすれ違っても、あいさつをしない光景が目立つような感じが致します。このようなことでは、自治会加入率がどうのこうのと言えませんが、せめて役員からでも、「あいさつ」の徹底、促進をすすめておるところです。

最後になりましたが、記事をお寄せいただいた皆様にお礼と感謝を申し上げますとともに、今後とも皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。